

WEB アンケートから見る・考える「こうちの男女共同参画」

「第6回 防災への女性参画2」 集計結果概要

(実施期間：令和6年12月15日～令和7年1月15日)

第6回 WEB アンケート「防災への女性参画2」の集計結果をご紹介します。

〈アンケート実施期間と方法〉

令和6年12月15日～令和7年1月15日 (Google フォームを使用)

〈回答者総数〉

248名 県内218人 (87.9%)、県外30人 (12.1%)

【性別毎の割合】

女性 142人 (57.3%) 男性 100人 (40.3%) その他2人 (0.8%) 回答しない4人 (1.6%)

【年代毎の割合】

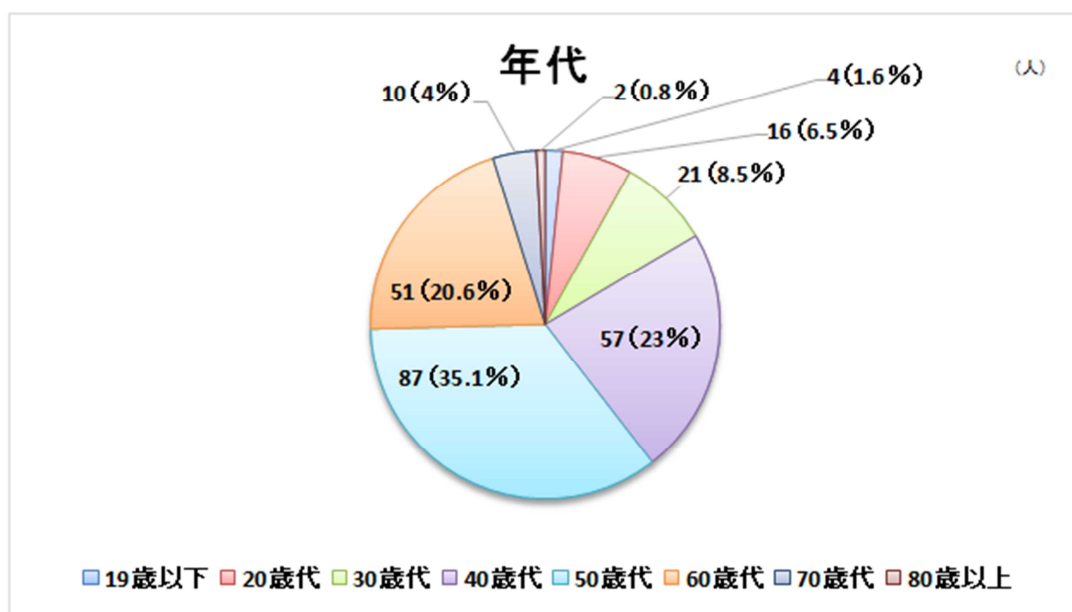
内訳： 19歳以下 4人 (1.6%) 20歳代 16人 (6.5%) 30歳代 21人 (8.5%)

40歳代 57人 (23%) 50歳代 87人 (35.1%) 60歳代 51人 (20.6%)

70歳代 10人 (4%) 80歳以上 2人 (0.8%)

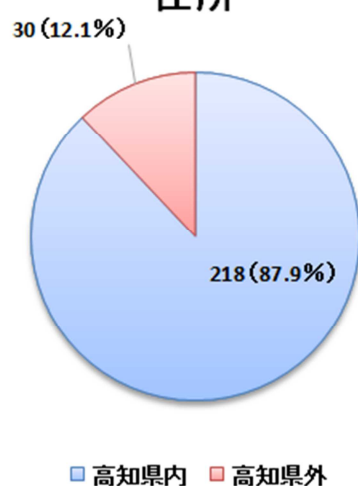
【回答者について】

性別毎の割合では、女性の割合が約6割で、10代～80代まで幅広い年代の方からの回答をいただきました。



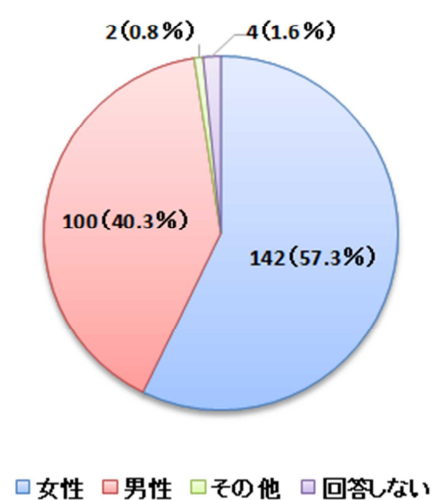
住所

(人)



性別

(人)



【回答者について】

年代(全体)

年代	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
人数	4	16	21	57	87	51	10	2	248
割合	1.6%	6.5%	8.5%	23.0%	35.1%	20.6%	4.0%	0.8%	100.0%

(注)割合は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100とならない場合があります。

性別

性別	女性	男性	その他	回答しない	計
人数	142	100	2	4	248
割合	57.3%	40.3%	0.8%	1.6%	100.0%

(注)割合は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100とならない場合があります。

性別(年代分類)

年代	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
全体	4	16	21	57	87	51	10	2	248
割合	1.6%	6.5%	8.5%	23.0%	35.1%	20.6%	4.0%	0.8%	100.0%
女	2	9	16	33	51	28	3		142
割合	1.4%	6.3%	11.3%	23.2%	35.9%	19.7%	2.1%		100.0%
男	1	6	4	24	35	21	7	2	100
割合	1.0%	6.0%	4.0%	24.0%	35.0%	21.0%	7.0%	2.0%	100.0%
その他					1	1			2
割合					50.0%	50.0%			100.0%
回答しない	1	1	1			1			4
割合	25.0%	25.0%	25.0%			25.0%			100.0%

(注)割合は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100とならない場合があります。

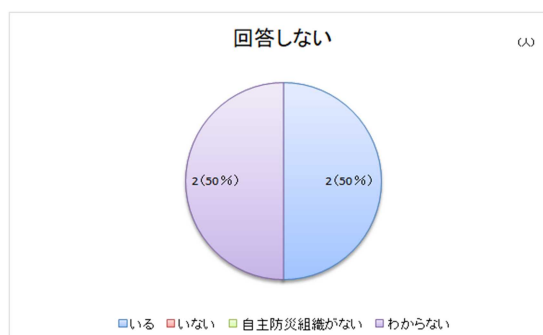
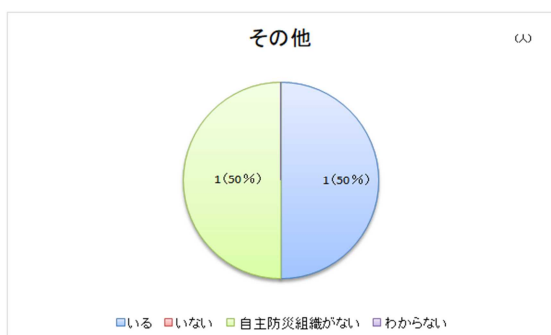
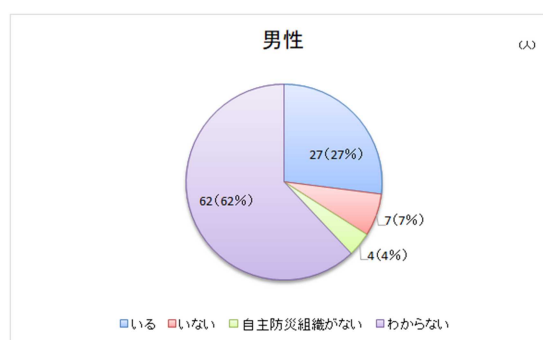
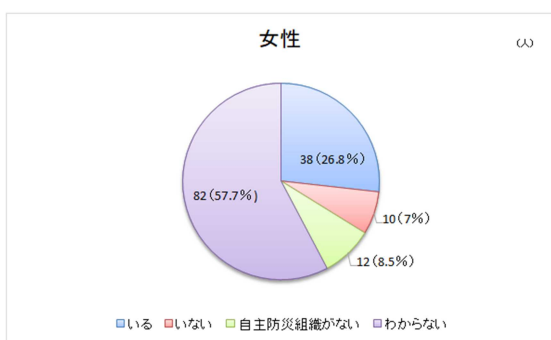
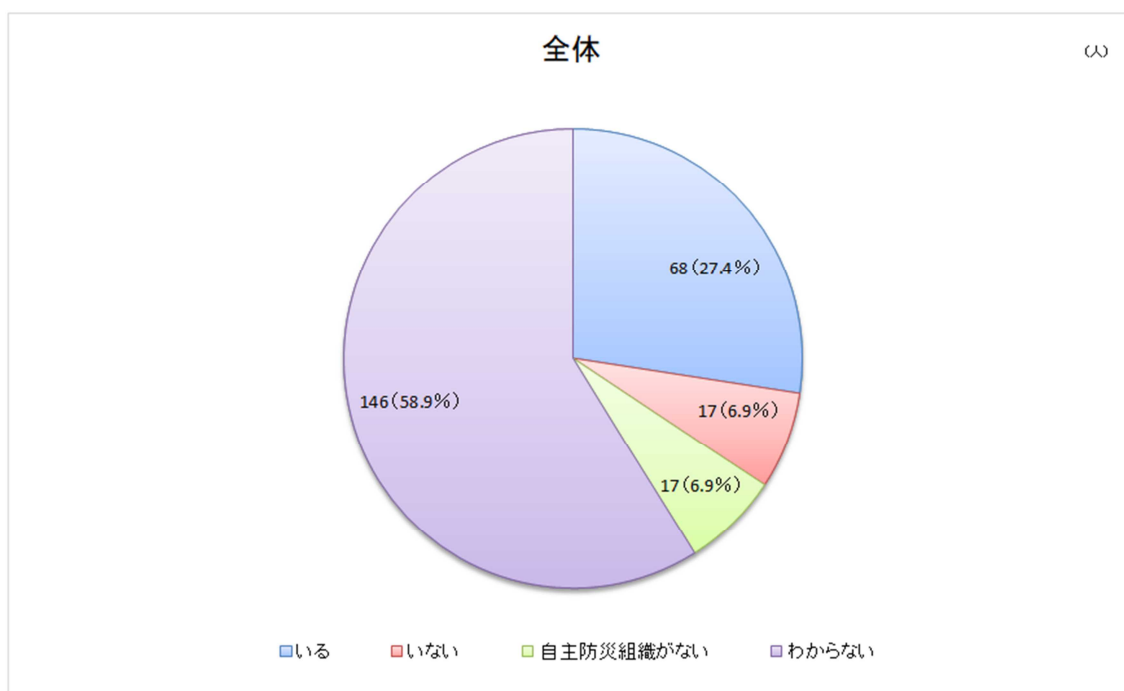
住所

住所	高知県内	高知県外	計
人数	218	30	248
割合	87.9%	12.1%	100.0%

(注)割合は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100とならない場合があります。

【問１】 あなたがお住まいの地域の自主防災組織に女性メンバーは入っていますか。

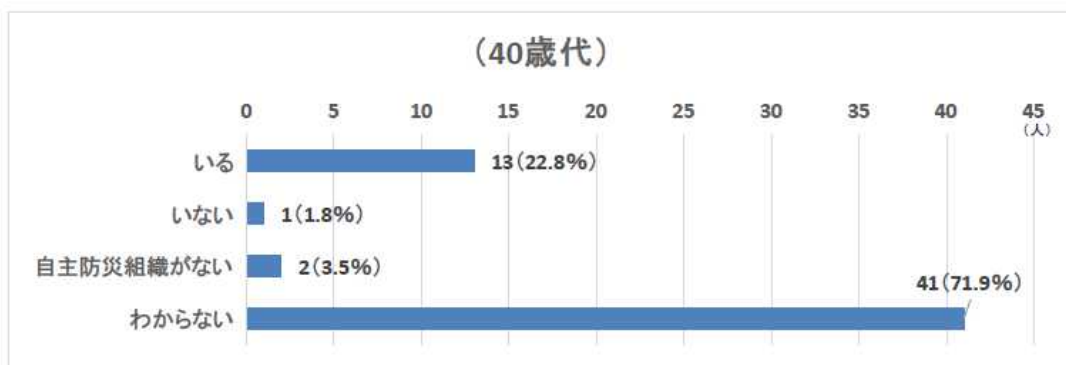
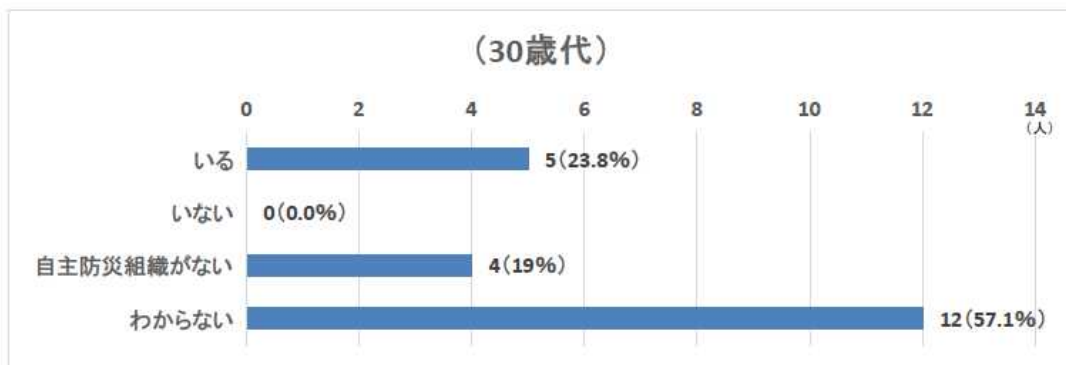
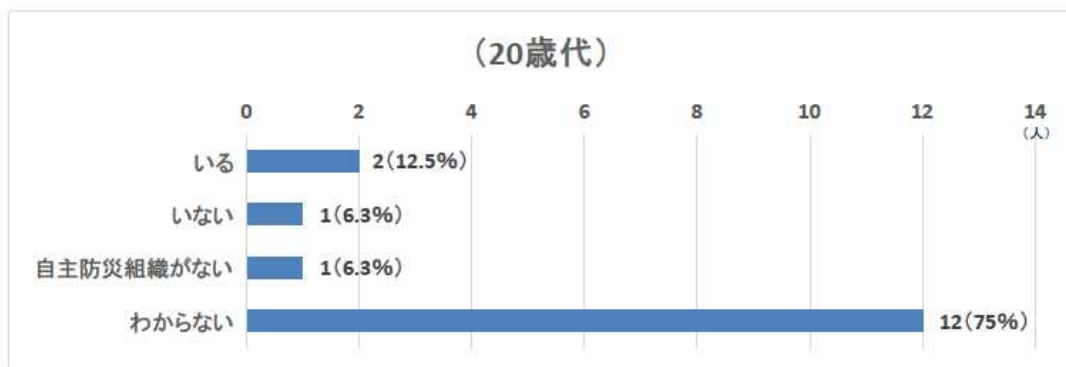
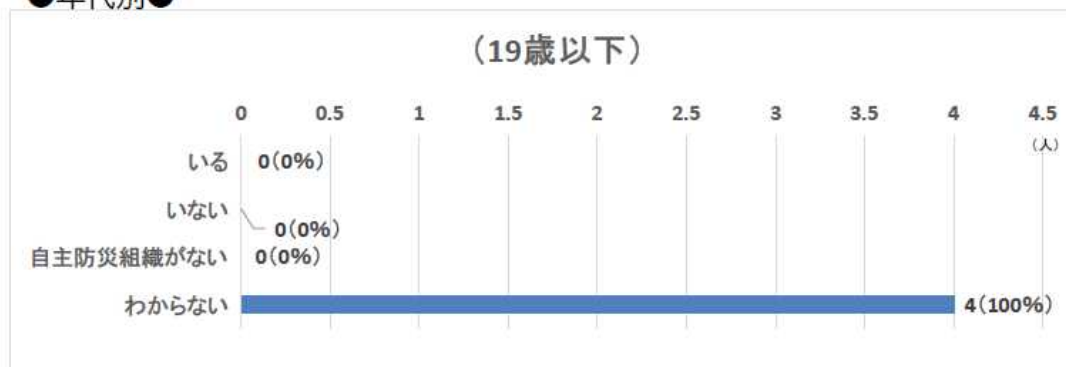
最も多かったのは、「わからない」146人（58.9％）で、ついで「いる」が68人（27.4％）、
「自主防災組織がない」17人（6.9％）、「いない」17人（6.9％）が同数という結果でした。

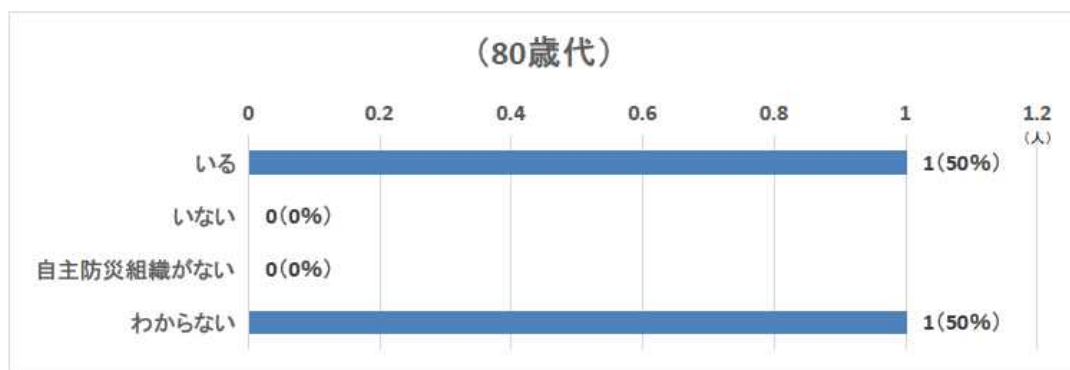
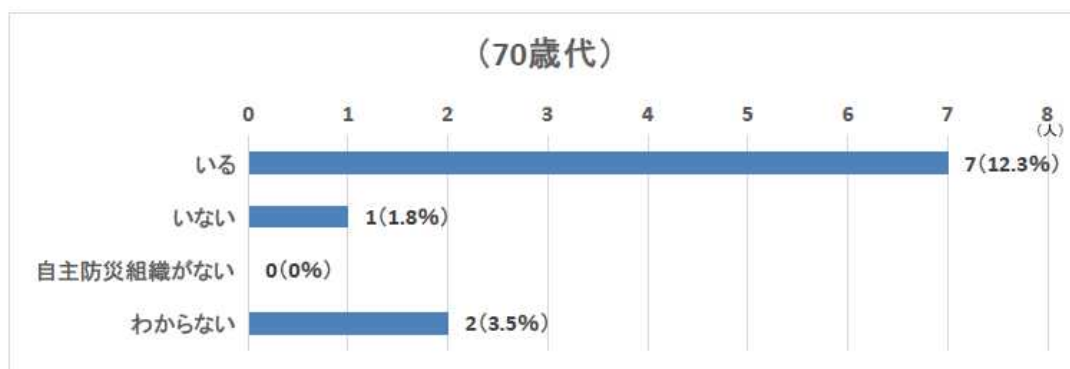
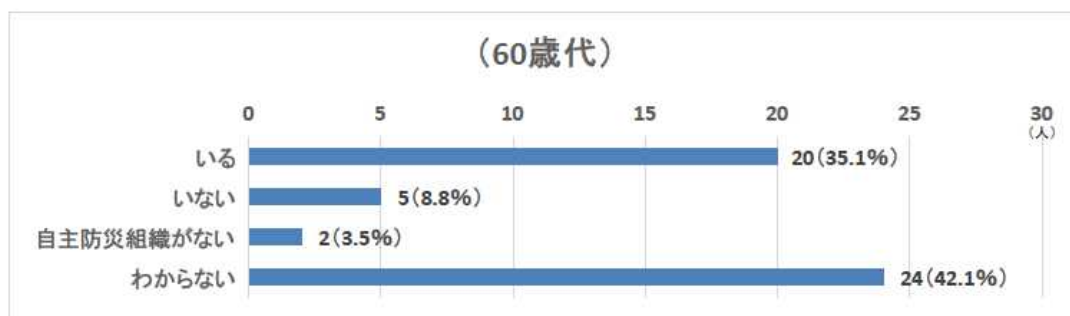
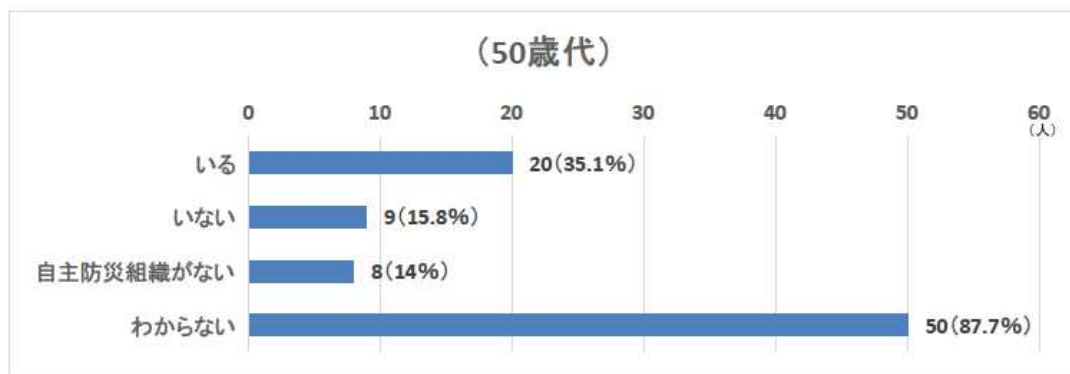


(注) 割合は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合があります。

【問1】 あなたがお住まいの地域の自主防災組織に女性メンバーは入っていますか。

●年代別●

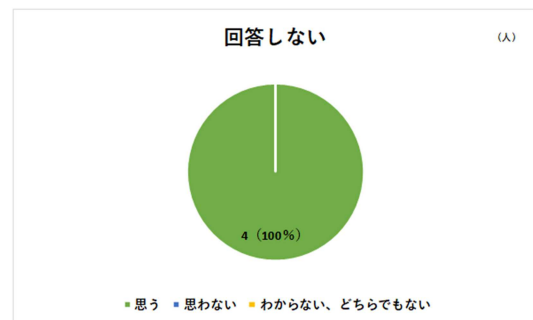
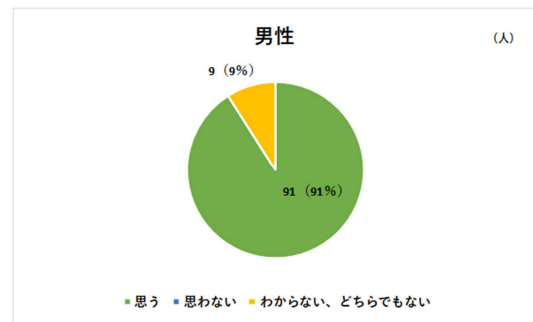
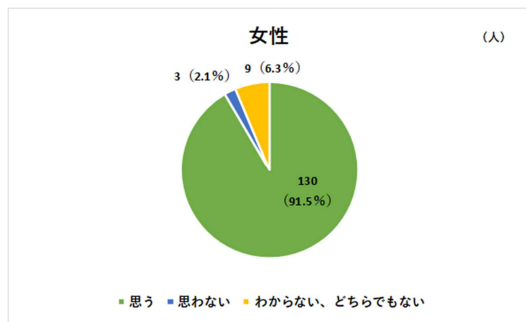
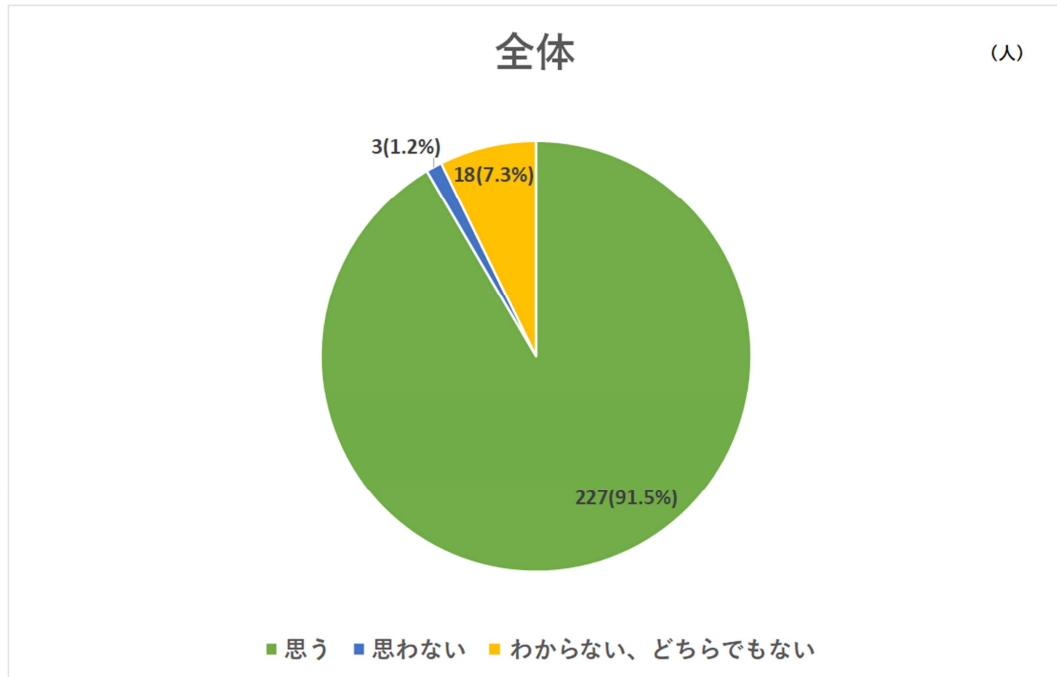




(注) 割合は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100とならない場合があります。

【問2】 防災計画を策定する場や避難所の運営、避難訓練など、地域の防災活動に女性の参画がもっと必要だと思いますか。

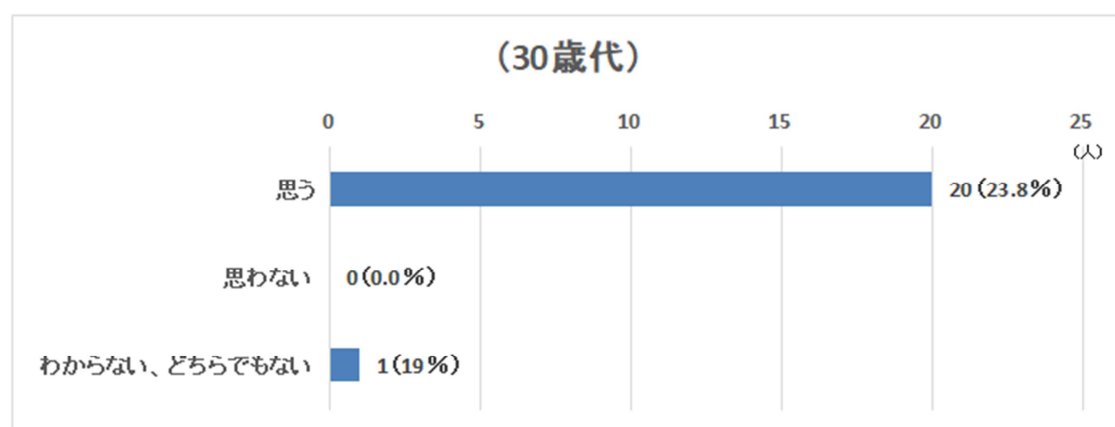
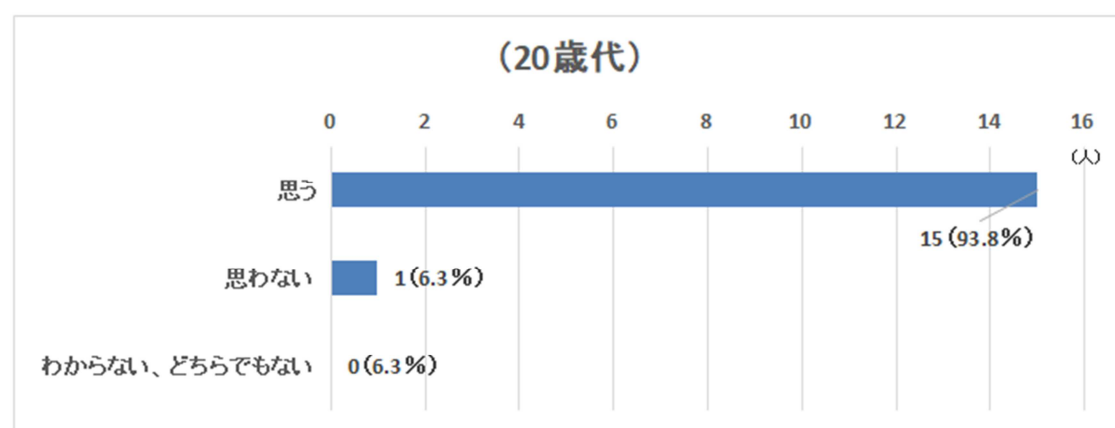
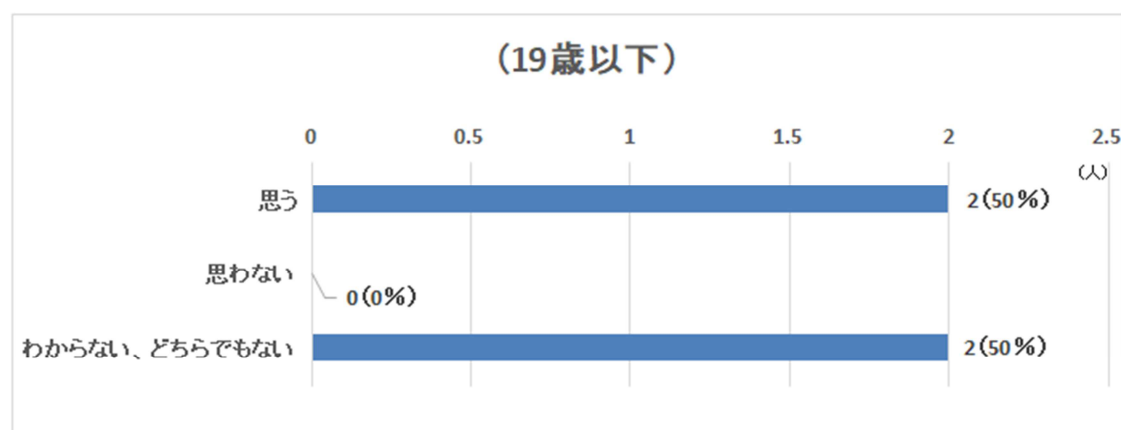
「思う」が227人（91.5%）で最も多く、次いで「わからない、どちらでもない」18人（7.3%）、「思わない」3人（1.2%）でした。



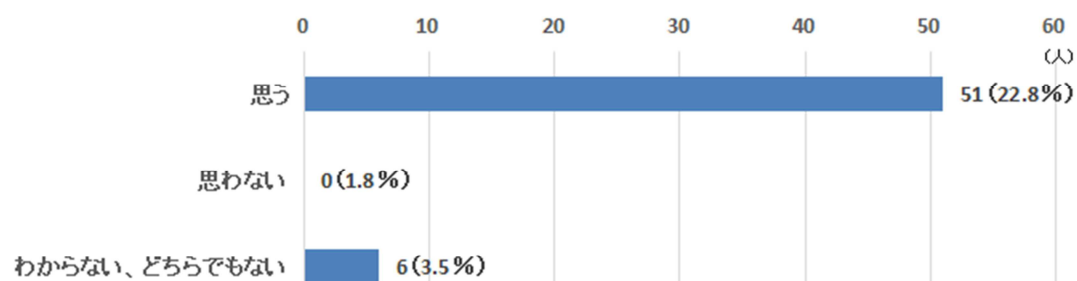
(注) 割合は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合があります。

【問2】防災計画を策定する場や避難所の運営、避難訓練など、地域の防災活動に女性の参画がもっと必要だと思いますか。

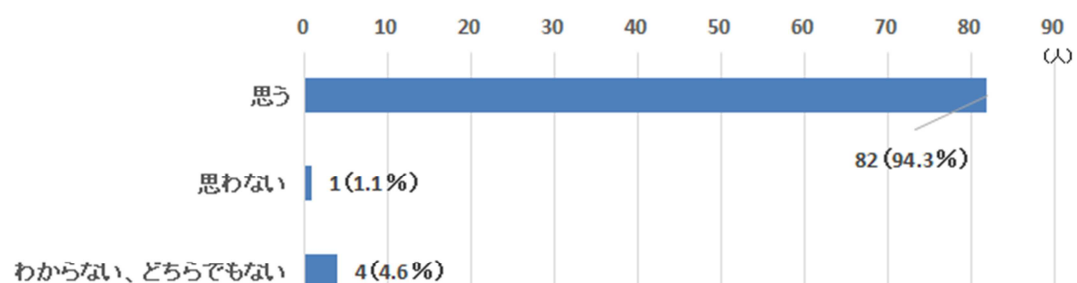
●年代別●



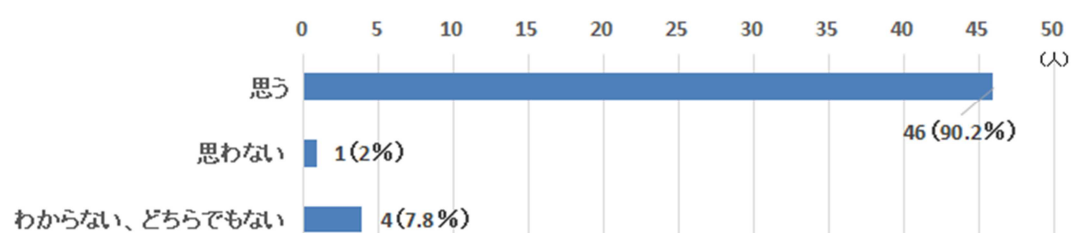
(40歳代)



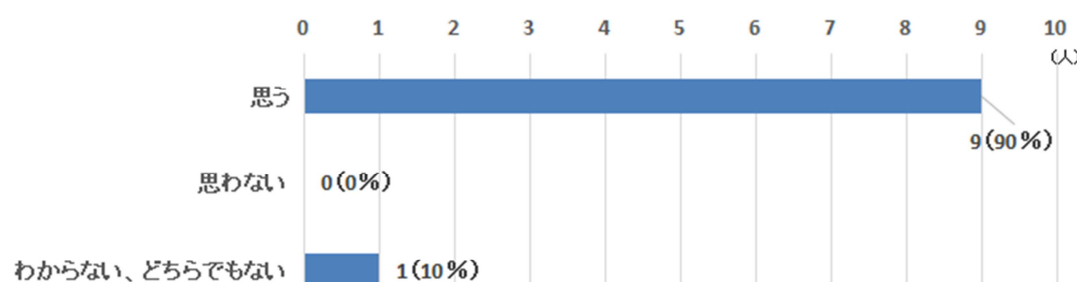
(50歳代)

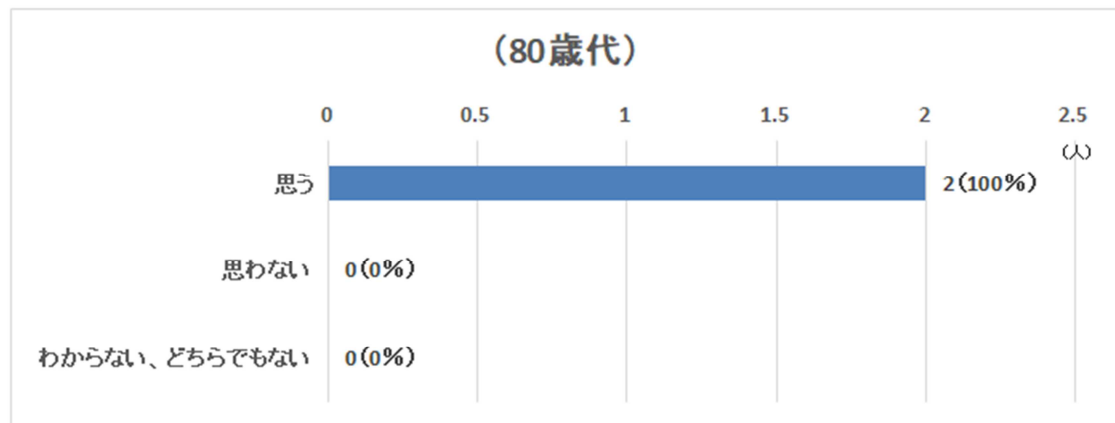


(60歳代)



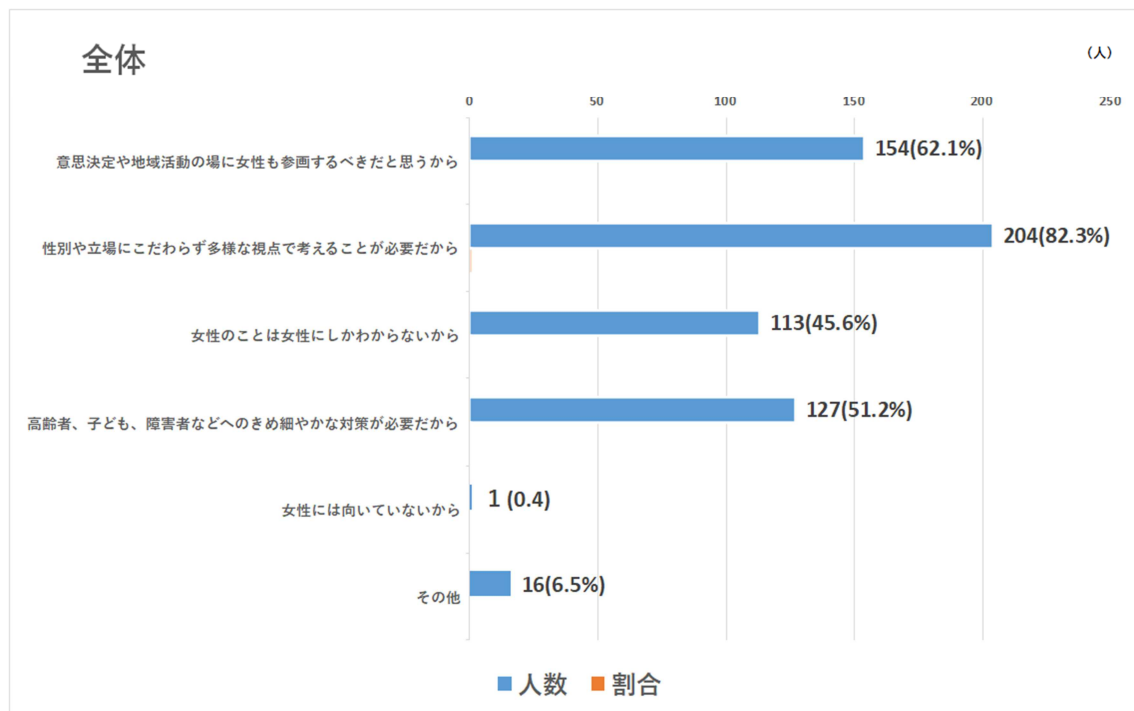
(70歳代)

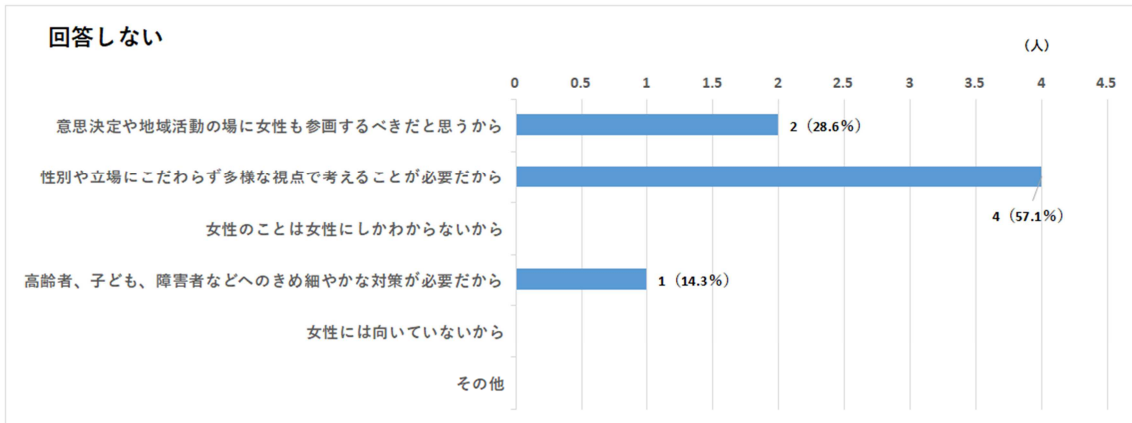
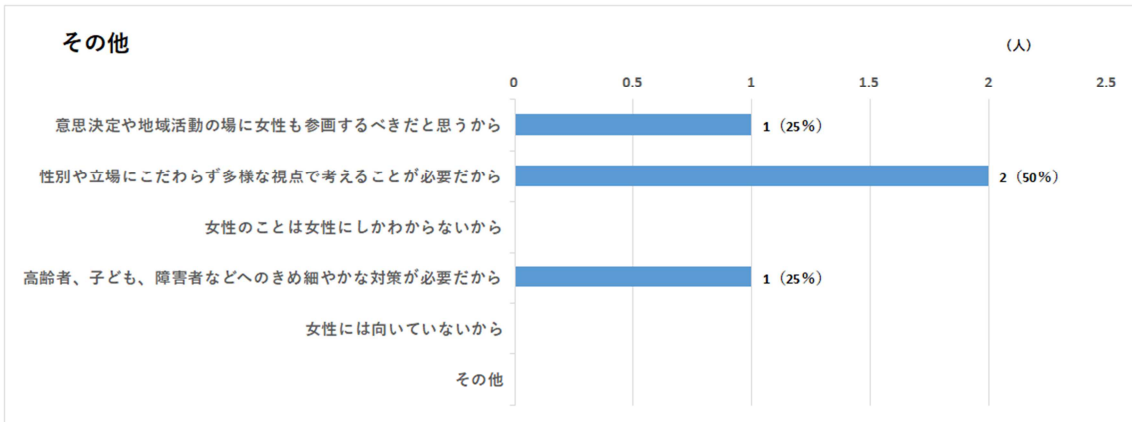
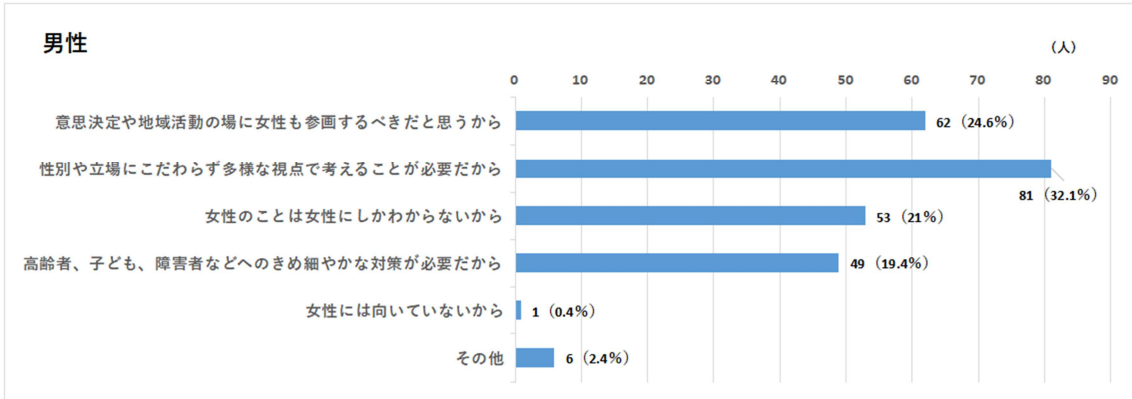
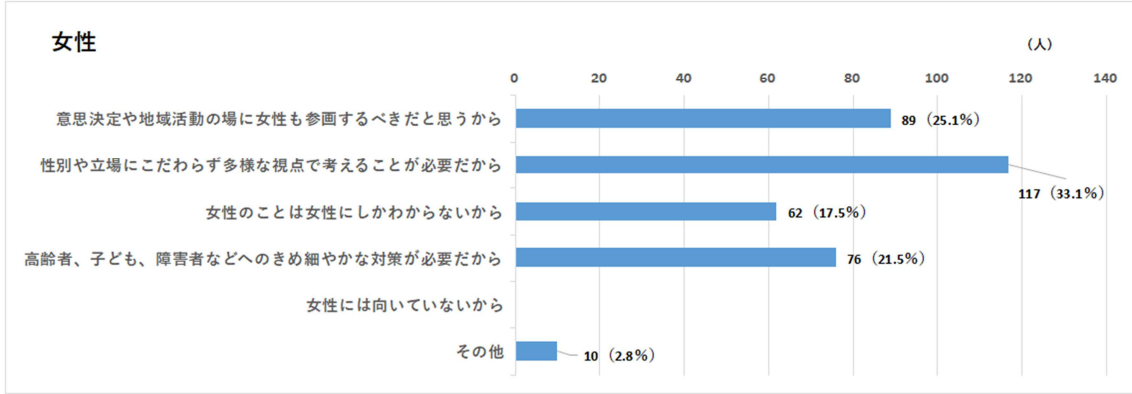




上記の理由を教えてください。(複数回答可)

最も多かったのは、「性別や立場にこだわらず多様な視点で考えることが必要だから」204人(82.3%)、次いで、「意思決定や地域活動の場に女性も参画するべきだと思うから」154人(62.1%)、「高齢者、子ども、障害者などへのきめ細やかな対策が必要だから」127人(51.2%)、「女性のことは女性にしかわからないから」113人(45.6%)、最も少なかったのは、「女性には向いていないから」1人(0.4%)という結果でした。

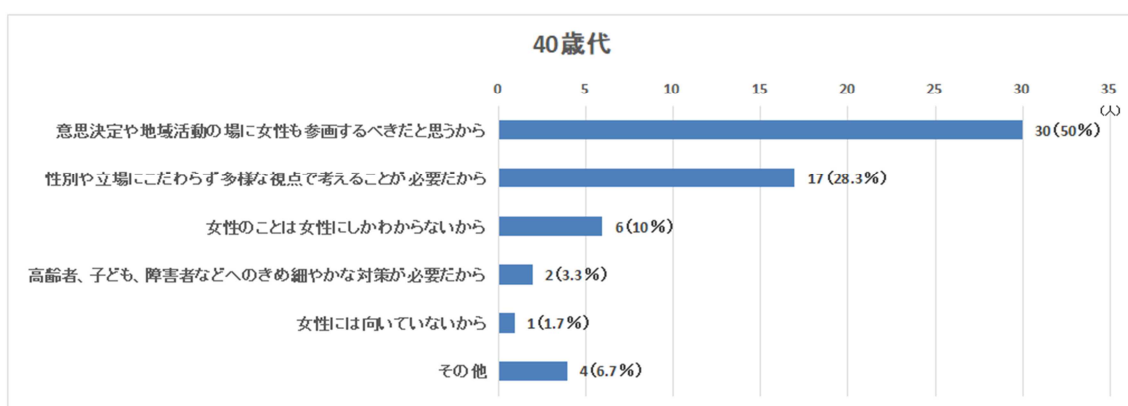
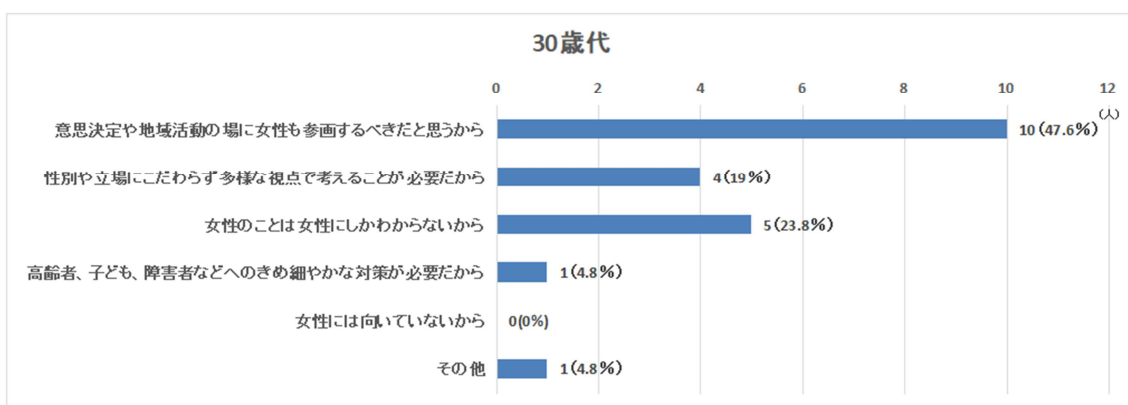
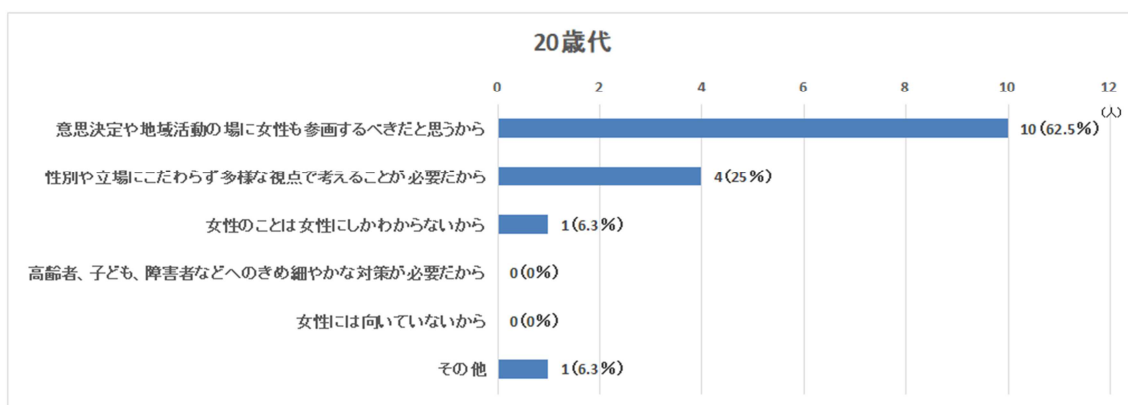
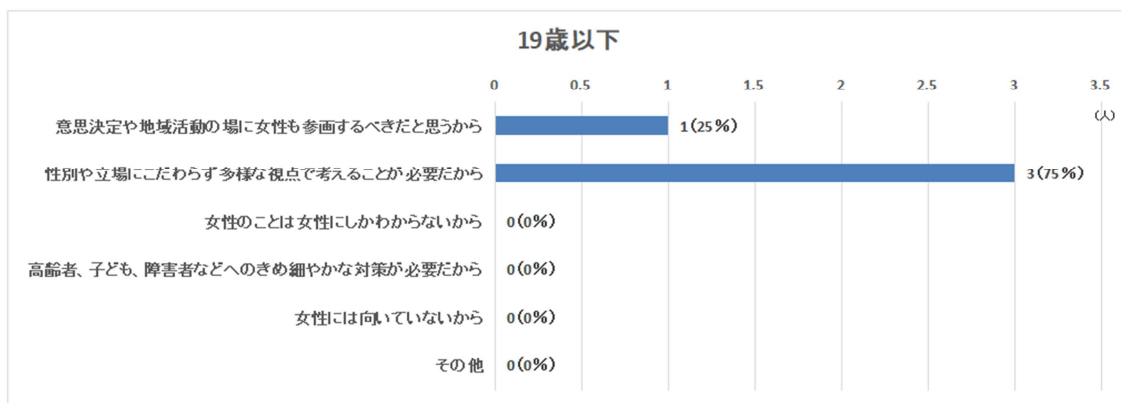


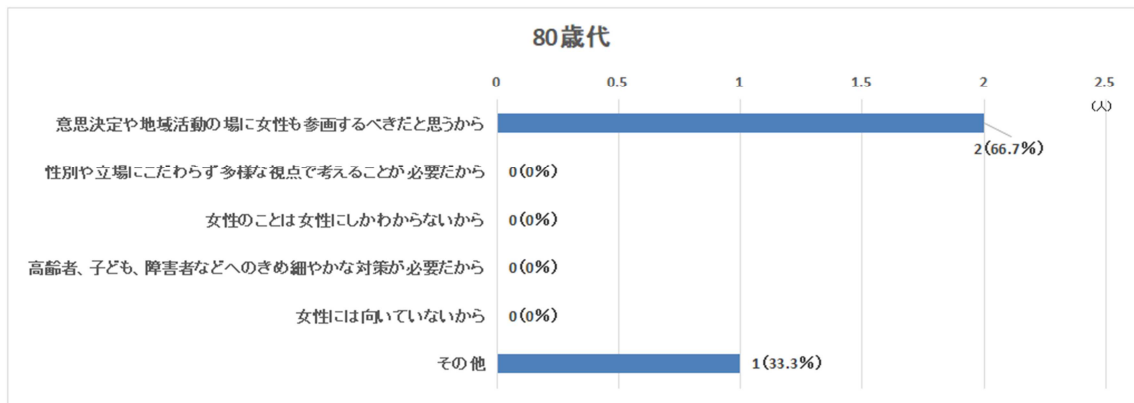
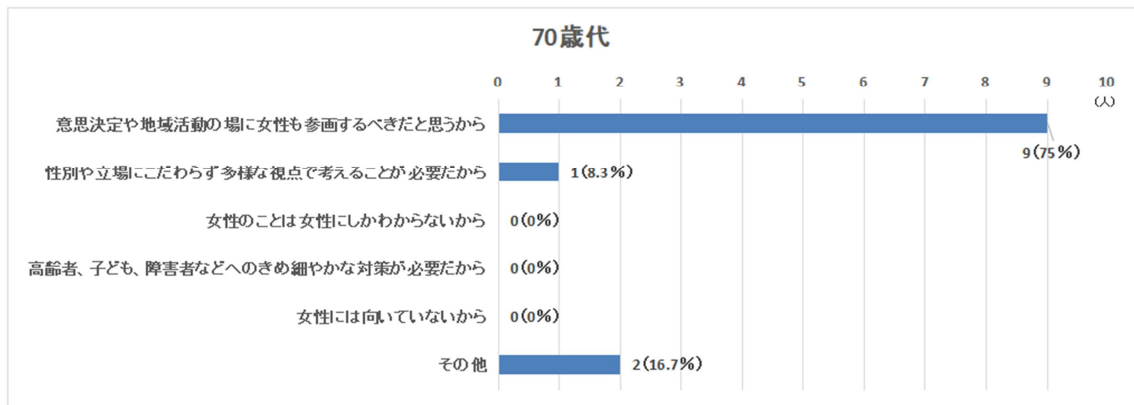
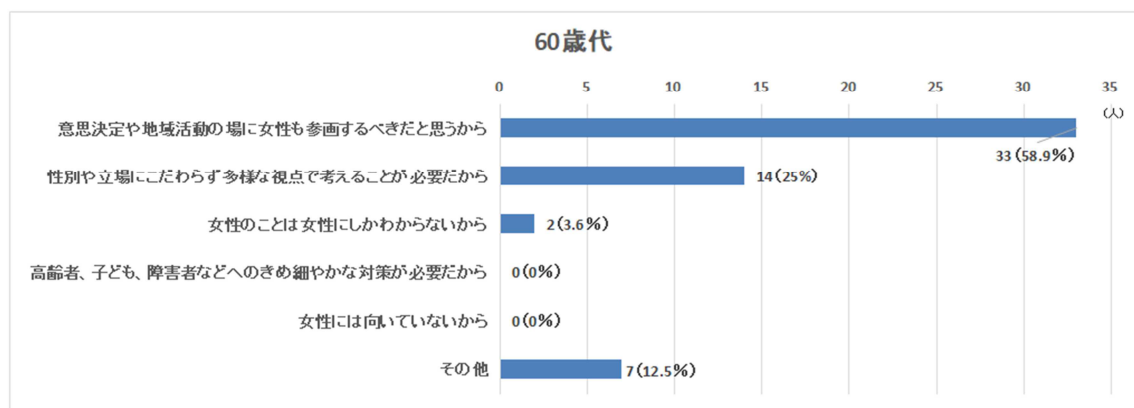
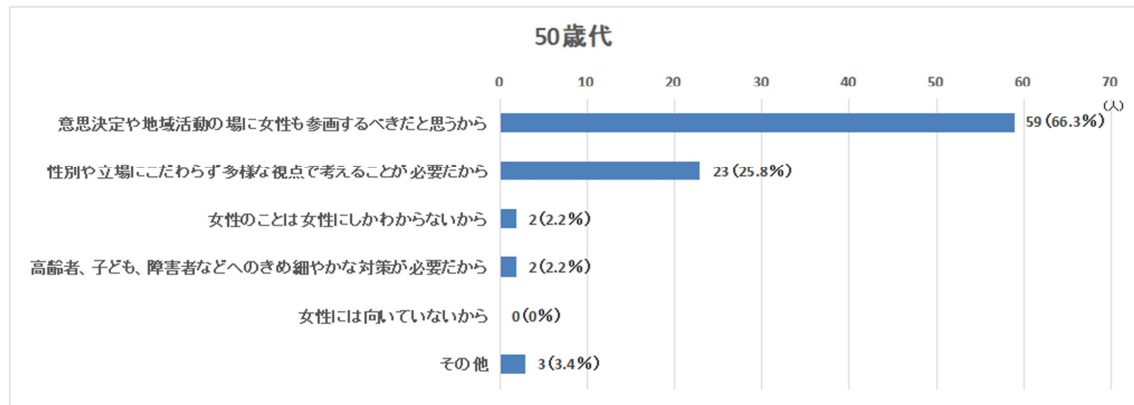


(注) 割合は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合があります。

【問2-2】上記の理由を教えてください。（複数回答可）

●年代別●





【その他の意見】

(女性の参画がもっと必要だと思う理由)

《女性》

(30 歳代)

- 自主防災組織というものの自体がわからないため。

(40 歳代)

- 現状がわからないため。
- 男性から女性に救助活動を行う際、ネット上で様々な疑念が湧き起こっており、女性も積極的に技術を身に付けることが色んな意味で求められてくるから。

(50 歳代)

- 女性のことは女性にしかわからないとまでは思わないが男性だけだと気づかないことはあると思う。
- 現在どの程度参画しているのか知らないから。
- 災害弱者への対応と同じで、 ペット同行・ペット同伴避難者に対して対策が必要だから。

(60 歳代)

- 防災訓練にはすでに多くの女性が参加しているから。
- いろんな視点が必要だから。

《男性》

(20 歳代)

- 避難所生活における女性の視点を取り入れなければ、円滑な避難所運営は不可能であるため。

(40 歳代)

- 能力を評価した結果、女性を登用するには賛成だが、何でもかんでも女性というのは違うと考える。
- 女性にしか分からない女性特有のことがあるから（「女性のことは女性にしか分からないから」はやや一方的な選択肢なので選びづらいです）。

(60 歳代)

- 自地域では女性メンバーが多数いるので。

(80 歳代)

- 災害時には、女性とか男性とか言ってもらえない

【問3】地域の防災に女性が参画することについて、あなたの考えをお聞かせください。

(自由記述)

《女性》

(19 歳以下)

- 意図はないと思うが、上記回答にある「高齢者、子ども、障害者などへのきめ細やかな対策が必要だから」は女性であることを理由に役割を負担させられる事例として多い。そういった不平等な負担を正すために、女性が参画することは重要。
- 女性男性問わず防災活動に取り組めたら良いと考える。

(20 歳代)

- 性別問わずに地域活動に女性が参加することは社会的にも重要なことだと思います。現在は多くの女性が地域活動に参加しているイメージがあり、どちらかというと男性もより参加するようになれば良いと感じています。
- 意思決定などに女性の意見を反映させることで、女性ならではの視点ができ、より柔軟な対応ができるようになると思う。
- 災害時の妊産婦への対応や配慮を検討するには女性が参画することが重要だと思います。
- 女性がもっと参加できるようになるべきだと思う。男性が女性の意見に耳を傾けて、避難所の運営に反映させてほしい。
- 力仕事においては、体力に差があるため男性と女性で分けて考える部分はあるかもしれないが、それ以外においては、性別で区別する必要がないため、あえて「女性参画」ということではないと思う。
- 生理の問題など女性の援助が必要と考える。
- 参画したい気持ちはとてもあるが、県内の防災の女性部などを見ても、情報が少なく、そこに参入するのにハードルを感じる

(30 歳代)

- 必要だと思います！
- 男性では、女性の困り事には気付きにくかったり、急な生理等の相談も躊躇ってしまったりと、「助けて」と言えない空気が生まれそう。災害が起きてから女性に声を掛けて、今後の対応をお願いするよりも、普段の防災から話が出来、協力出来る関係を作る事が必要だと思います。
- 小さい子どもへの対応や高齢者への声かけなど、細かいところに気づく女性が必要だと思います。
- 防災士の資格を取得する際にも講義で聞いたが避難所の運営では更衣室やトイレの問題は女性視点で考えたほうが良い。
- 様々な視点が必要だと思います。
- 女性が防災に入るとなると、炊き出しや雑用などに回りがち。そういった面も変わると良いと思います。
- 避難所の管理責任者には男女両方が配置されるほうが運営が円滑化されるといった点からも、地

域防災に女性が積極的に携わることは必要だと考える。一方で、男女の役割を固定化せず、「できることをできる人がやる」体制作りも必要だと考える。

- 男性・女性どちらの視点も必要だと思うので、性別に偏ることなく参画できればよいと思います。
- 当然参加するべきだと思います。
- 自主防災組織という言葉は初めてきいた。こういった組織でどのような活動をしているかもわからない。地域の防災に女性が参画することについては、積極的に行っていった方がよいと思う。理由としては、例えば災害が発生した際、女性目線でないと感じけないことや女性が必要とする物資の判断もできると思うため。過去の災害では、被災地に物資として生理用品が届いたが、一部の男性が不謹慎を理由に受け取りを拒否したという話もあった。(地域の防災から論点が外れてしまっていたら申し訳ないです。)
- 上の設問で「高齢者、子ども、障害者などへのきめ細やかな対策が必要だから」という選択肢があるが、女性が参画することが高齢者などへのきめ細やかな対策につながるという意味ならば選択肢として不適切だと思う。女性→きめ細かな対応ができる(男性はそうしたことが苦手)というイメージで動くこと自体が男女共同参画の理念に逆行しているのでは。
- 女性特有の生理現象や被災地での性被害もあるため、女性の参画は重要ですが、田舎のコミュニティで覇権を握る「自然と女性を下に見る男性」の存在が障壁となり進むことはないと思います。
- 地域防災は住民が主体的に取り組まなければ進まないこと。性別関係なく積極的な参画が必要と考える。
- 体力的な不安や女性ならではの危険につながりそうなことに気づける可能性があるから。
- 女だからとなめられたくない。ソレ以外の場所(私は西部地域です。)でも研修をお願いしたい。

(40 歳代)

- 性別に関わらず、多様な意見が取り入れられる防災組織の必要性を強く感じています。
- 女性や子どもを性被害から守るには、女性が必要と思いました。
- 防災以外の場でも日本の風土として女性の参画を促す環境が整っていないので、そこから変える必要がある。家父長制の撲滅が必要。
- 女性が参画することで視点の変化が発生すると思います。男女で思いつきに差があることが、そのまま視点の多様性だと実感しています。
- 女性の参画の必要性はわかりますが、具体的な方法が見えていません。
- 災害時の性被害等、女性の目線で考えないといけないことがあるから。
- 特に災害時の防犯やプライバシー保護などについて、男性も意識する人が近年は増えたが、具体的なことは女性も加わって対策することが必須だと思う。互いに軽視したり人任せにすることなく、日ごろから話し合っておくことが大切だ。
- 女性や高齢者等が参画するだけでなく、意見が出しやすい雰囲気づくりや、実際の災害時の事例等、災害弱者とされる当事者でなくてもイメージしやすい情報提供も必要と思います。また、男性等当事者でない側の視点や意見も丁寧に聞き取る必要があると思います。(「こんなことを聞いて

ていいかわからない」等、男性も難しさを感じているのではないのでしょうか。）

- 女性ならではの気づきが多くあると思うので積極的に参画できるようになればいいと思う。
- 女性の視点での意見も必要。
- 男性に任せて、男性の思うがままに女性が動くのは違うと思います。女性の視点による地域での防災活動や、備蓄品の準備が必要だと思います。例えば防災訓練の時に炊き出しは女性がやると言う、暗黙の了解のようなものがありました。女性だから料理や洗濯などを行うと言う事に、疑問を感じていました。その事を自主防災会で意見を出したところ、男性の役員さんはそう言うところに、疑問を持っている事には気付かなかったとおっしゃいました。やはり、しっかりと意見を伝えていくことも大切だと思います。男性だから、女性だからではなく、男女平等に意見を言え、改善していける防災会運営をしていきたいと思っています。
- 男女間での性差の不理解、女性への必需品など、今までも様々な避難所で大きな話題となってきたから。
- 気軽に参加したり、気軽に参加をしなかったりできるような。つまり、防災組織に入ると必ず出席しなくてはいけないような、そんな固い縛りを一定はなくさなければ、参加をしようとは思えないです。育児や家事に仕事に…環境は各々違えど、忙しい日常のなかで、これは女性に限らずかと思いますが、まず、地域の防災事業や訓練に参加をしてみようかと思えるように、門扉は軽く開けておく。高齢化が進む今、堅苦しい昔ながらの体制…と感じてしまいがちな組織ではもったいないです。高齢者の意見や知識や経験はとても大切ですから、中堅層が上手く引き継ぎながら、若年層の意見も聞いて取り入れていけるような…そんな、地域の防災の取り組みをしてみたいです。
- 地域防災の体制づくりに時間が割けるのは高齢男性が多いように思います。年齢や性差による意識のズレは女性が参画するだけでは埋まらないので、さまざまな世代の方々との関わりが必要です。女性の視点は女性の為だけではないことを知ってもらう必要が大いにあると感じています。
- 積極的に参画できるといいと思います。
- 勉強会などは女性が積極的に参加するものの、購入品や訓練などを行う際、男性の代表の意見が強く、女性が必要とするもの、ことの意見が通らないことがある。また、意思決定をする代表グループに女性が入っていない時は、意見を言う場所さえ、そもそも与えられない。
- 男性が男性に相談するように、女性にも女性にしか相談できないことがあると思うので。
- 参画が必要と思いますが、女性は家事・仕事に忙しく、なかなかそこまで手が回らないと思います。仕事の一環としてなら参加しやすいと思います。
- 性別関係なく多くの住民が参加するべきであると思う。一方で、会議や整備、訓練などが平日日中に行われていることもあり、働いている世代の参加が難しい。
- 避難所の設営・運営等に女性の意見は必要であると思う。しかし、女性として地域住民の立場でそこに参画するのは、時間・手間や地域の自治会の構成員等を考えると、人任せになってしまう感があり、市町村等の行政において、女性が参画してくれたらと思う。
- 参画すべきだと思いますが、子育て、家庭事情などにより難しいのではとも思います。

- 着替えや洗濯スペースの配慮など、女性が気づく視点があるので参画は大事。
- 意思決定する性別に極端な偏りがある場合は、均衡する方向に進むと良い。
- 被災した当時、2か所の避難所でセクシャルハラスメントにあいました。女性の力が必要です。
- 女性ならではの視点で必要なことが見てくると思うので、より多くの女性の参画が必要だと思います。また、子どもや高齢者、障害者、LGBTQ、外国の方など、多様な方々が参画すると良いと思います。
- 例えば、実際に震災が起こって避難所を運営する場合においては生活全般が主な活動となるため、生活周りのことが得意なのは女性の方が多いと思うから。また、女性特有の問題（生理や授乳など）の対応については女性にしか分らないと思う。
- 地域活動（自治会等）について、意思決定する場には男女同数参加した方がバランスが良い。自分の居住地域の印象だが、参加者名が「男性」になっており意思決定の場には「男性」が多い。
- 性別・年代関係なく、幅広く参画すべき。でないと、思想が凝り固まる。
- 防災活動は日頃の地域活動に繋がり、暮らしを豊かにしてくれます。女性も男性と協力して活動をしていくと皆んなで安心安全を守れます。
- 基本的な話も大切ですが、今後近い将来に起こる災害に対し、時間配分の使い方の中で具体的な避難行動の実践の有効時間が必要だと思います。
- 「若者、余所者、馬鹿者」を混ぜるという考え方が、地域活性化だけでなく地域防災の活性化にも有効じゃないかなと思います。おそらく、面倒ですけどね。
- 参加したい。

(50 歳代)

- いつ何時でも何が起こるかわからないので、女性の参画も多様な視点での防災は啓発しながら、自己力も上げていき何かあったときに対応できるようにしたい。啓発活動は大変だと存じます。がんばりましょう！
- みんなのためのみんなによるみんなの地域なのだから、女性も男性も、障がい者も高齢者も、子どもも意見を発する必要があると思います。
- 地区では男性が全てを取り仕切っています。高齢もありますが女性等に必要な物はわからないようです。地区の女性からクレームもあります。女性が参加する事で年齢、性別問わずサポートが出来るのではないかと思います。
- 性被害防止や、一人一人の人権を守るためにも、女性の参画は必須であると考えています。
- 災害が起こる前から女性が参画して防災意識を高めたり、男性の偏った意識を変えていかなければならないと考えます。具体的に・・・と言われると、得策はないのですが・・・。
- 防災・減災は女性ならではの視点で見えてくることも多々あると思います。災害時には男性だけでは対応できないこともありますから、それぞれの得意分野で助け合っていくことで身体や精神的に助かるところもあるのではないのでしょうか？住んでいる地域でも女性の方が自主防災組織のメンバーとして活動してくださり広い視野の下で防災意識を高められています。

- 女性だから気付けることはたくさんあります。男性だからダメだと性別で分けてはいけないと思いますが、やはり男女それぞれ得意な分野は違うし、今は女性も責任ある立場で活躍されている方もたくさんいるので、やはり平等に参画すべきだと思います。
- 女性の視点での防災対策がまだまだ不十分だから。
- 女性ならではの視点で防災を考えること、日頃から地域の情報収集などにも役立つと思う。
- 防災に限らず、地域の活動においては男性が主で女性はサブ（場合によっては従）という印象がある。対等であることが大事だと思う。
- 年代が偏らないほうがよいと思います。
- 教育現場の方の参加が少ないと思ってます。
- 阪神淡路大震災のときの避難所の酷さから今は改善されている部分はありますが、男性が多いと抜け落ちることもあります。
- 実際の被災地で女性や子どもたちの性被害が多発しています。マスコミは美談のみを取り上げ、被害については報道せず、被害防止のための啓発活動を一切していないため、被害があることを知らない人も多く、防げたかもしれない被害を減らすことができていません。女性からの目線が必要です。また障害のある方たちの避難が難しいです。日頃、関わりが多いのは女性だと思うので、女性の参画が必要だと思います。生理用品のことや授乳時の女性が本当にイヤな思いをしたことも聞いています。男性では分からないことがあると思います。
- 私の住む地域では、もともと地域の意思決定は、男性が行っている。女性は台所仕事をする人が多い。そこから間違っていると思うようになった。防災についてのみ考えるのではなく、日頃の地域活動からも男性も女性も参画しやすい環境が整うことが大切だと思う。日頃の男女平等と、防災に女性が参画しやすくなるのは地続きだと思っている。元日の能登半島地震により、私も一時避難をした経験から、より一層、男女平等が進まないといけないと思い知った。
- 男性だけが意思決定できる状況のみをシステム化するのではなく、女性が意思決定できるシステムを作り、多様な視点で考え行動していくことが重要です。そして女性のことは女性にしか分からないこともあるので、きめ細やかな対応が必要です。
- 実際の被災者の女性たちからの声（災害時、女性の参画が必要なこと）をピックアップして伝えていかないと、なかなか切実さが伝わらない。
- 女性をはじめ、障がいのある方、配慮の必要な方の意見も取り入れれば、誰にとってもやさしい防災体制が作れるのでは・・・と思います。
- 女性目線の防災活動も必要だと思う
- 女性特有の健康課題などを踏まえた防災等につなげるため、いろいろな年齢層の女性の参画が望ましいと思います。
- 女性ならではの対策が出来ることに賛成。
- 地域活動に参加する時間とることがフルで仕事をしていると難しく労働環境の整備も必要かなと感じます。
- テレビ番組で避難所生活をされた方が、女性ならではの困ったことについて経験談を話されてい

た。女性の目線で設備や備品を整えたりする必要があり、女性の意見が反映されることは大事なことであったと感じた。※女性だけでなく、子どもや、高齢者など、その年代によって踏まえておきたいことがあると思う。

- 自主防災組織はあるが、活動ができてなく、状況把握ができていない。
- 多様な視点を持つという点で意義あることだと思う。防災組織を作ることが急がれたために取り残されている人がいて、「助ける人」「助けられる人」のような構図があると思う。どうやったら生き残れるか、災害後の生活の不安は何なのか、何ができて何ができないのか、だから今何ができるのか。不安のある人こそ計画に参画出来たり、不安を話せる場があると良いと思う。その不安を少しでも解消していく知恵を出し合い、行動して行くことが地域の防災力に繋がると思う。女性だけでなく、いろんな人が参画し、相互理解が深まれば、平時の地域のコミュニケーションが増えていくのではないかなと思う。地域の意識が変わっていくきっかけになるのではないかと想像する。
- 性別や属性に関わらず災害に備えることが必須であると思います。
- 男性主体で行うのではなく女性の意見も尊重し、地域で男女協力しあって防災活動をするのが良いと思います。
- 防災に性別は関係ないとは思いますが、プライバシーや避難環境によっては、女性なりの視点で判断、配慮が必要だと思います。
- 女性や子ども老人など、立場の弱い人にも準備するのが大切で、弱い立場の意見も取り入れなくてはならない。準備してないことは、基本的にはできないので、備えることが大事だと思います。
- 男女の区別なく、積極的に参画すべきだと思う。
- 防災に限らず家庭外の活動に女性を参画させると、その女性が忙しくなりすぎる傾向が未だあると感じます。家庭のことを安心して任せられる男性が増えていくことを願います。
- 育児、教育、介護により多く関わっている女性の参画は必須と考える。
- 正直、実際に災害に直面したら、その場で自分が活動主体となる余裕があるのかどうか、そこから自信がない。参画した方がよい・すべきとは思っているが、いざとなったら我が事・我が家ごとで精一杯になってしまいそうだ。それではいけないのだろうけれど。
- 自分の性別と関係なく、近所の不愉快にさせられる人に会いたくない。
- おおいに参画すべき。
- 女性の参画には意義があると思います。女性にしか分からない困りごとを解決したり、女性ならではの細やかな気配りや思いやりを防災に生かす事で、より良い地域づくりが出来ると思います。自主防のない町内会ですが、小学校区の防災連合会に参加していた経験があります。男性多数の場で少数派の女性が意見するのは大変な事で、男性の威圧的な怒鳴り声のエスカレートしていく役員会では、思った事も言えませんでした。大声は恐怖心を与えます。人の話をよく聞きましょう。主張は怒鳴らず落ち着いてみましょう。という基本が出来ていない地域では、女性やその他少数派は、参画したくても出来ません。そもそもが、人の意見は聞きたくない、少数派に参画させたくない、という人が多数の役員会なのだから仕方がない、と諦めました。女性の参画は必要

ですが、そう簡単ではないように思います。

- 女性目線や、女性だから相談出来る事等が、多々有ると思いますが、住んでいる町内会でも、自主防災的な事は1回も有りません。個人個人が、まずは防災意識を上げていかないと、地域ごとの防災は難しいと最近思う様になってきました。
- ジェンダーレスと言えども、性別関係なくではなくて、色々なタイプの方の参画が防災には求められていると思います。多様な視点での取り組みが必要だと考えます。想像の域では困り事の発想にも限界があるので、まずは男女共に防災にかかわる事で、きめ細やかに対応できる防災が実現できると思います。
- 女性ならではの細やかな視点や必要な配慮等の意見を伝える女性が必要だと思います。
- 固定観念にとらわれず多様（柔軟）な考え方ができるのではないかと思います。
- 男性では気づきにくい事や、災害時の女性の安全を守る為にも、女性の立場で考えられる女性が必要だと思います。防災に女性抜きでは、災害時に治安が成り立たないと思います。
- 声の大きい男性が仕切るグループと別組織として女性だけの防災組織を作るべき。
- 可能な範囲で幅広い年代の女性が参画できるといいと思う。
- 女性の参画、防災の場だけではありませんが地方は特にまだまだ男性中心のシステムは多く、それを変えるのは容易ではないですが、少しずつでも声をあげ行動をすることで変わっていくと思っています。
- 防災に限らず、我が事として捉えるためには、女性に限らず子どもも高齢者も参画が必要。
- 避難所の運営には、女性が必要物資の選別や、配布(ナプキン、下着等)、避難所での性暴力の抑止。
- 女性が参画する大切さを阪神大震災で経験したので。
- 女性のきめ細やかな視点は大事だと思う。男性に守ってもらうという受け身姿勢でなく、自発的に考え取り組んで欲しいと思うから、参画できる場を構え、受け入れる場を作ることは必要と思う。
- 普段地域のお世話をしてくださる女性の方は皆さん奥ゆかしいので、私は私はと意見を主張しないです。そういった空気になっています。でも長い期間ずっと細々としたお世話をした方の意見はとても的確です。尊重される意見だとみんなに知っていただきたいと思います。
- 女性の参加は、必要だと思う。

(60 歳代)

- 女性の参画は絶対必要条件の一つだと思います。また、できれば、障がいをお持ちの方や高齢者の視点も必須だと思います。できることできない事、なんとかなるかもしれない事、置き去りにされる方のない視点を望みます。
- どんな分野においても性別の偏りがあってはならない。
- 生理のことやボランティアを装った男性からの性被害など、男性には思いつきにくい女性の視点がとても大事だと思います。男性ならではの視点もあると思いますが、多くの女性の参画と女性の声が通しやすい防災チームを望みます。
- 防災活動に女性が参画することは大事だが、他方で、女性イコール炊き出し、といった性別に特

化した役割分担が当たり前とならないよう意識付けも必要では。

- 女性は、参画してから経験した事を共有する能力に特に長けていると感じます。その意味でも、1人でも多く防災に携わっていくことが、減災、防災になると強く考えています。また、声を挙げないと、いると認識はあっても、そこに存在していることを意識して貰えない。また、男性の方々に対しても、こちらの思い込みで対応しないように。女性側も、気をつけないといけなと感じました。千差万別、一括りで、女性、男性と分けることは乱暴ですが。つついやりがちだと感じる場面があります。
- 女性の視点も必要。
- 住んでいる地域は自主防災会に当初より女性が入っていたので、あえて女性が参加しないという気付きはソーレからの発信からでした。女性だから、から更に老若男女みんなで考えられるようにすることが大切では？と考えるようになりました。
- 各自が自分事として考える。
- 男性、女性にかかわらずできるだけ多くの人が参画することは、多くの対応が得られると思うし、特に女性の参画は女性特有である生理や妊婦などへ必要不可欠だと思います。
- 妊婦や出産後の授乳中の女性たちが安心して避難生活を送ることができるように、女性の視点で防災対応を考えたほうが良いと思う。
- 参画すべきと思うが、居住地域ではそのような考えがないに等しく、また防災に対しての認識が低い。
- 性別や年齢に限らず、まだまだ聞こえる人中心で避難訓練が行われているように感じます。聞こえない聞こえにくい人たちも地域や職場で自ら避難訓練に参加するための情報保障や、普段からのコミュニケーションが大事だと思います。
- 衣食住の面からも女性からの視点で要配慮者への手厚い支援ができると思うから。
- 発災後の行動には細かい配慮が必要なことが多いと思われます。女性でなくては気が付かないこともあると思われます。また、何かを決定するときにも話し合いが良いと思います。
- 災害にも防災にも男性、女性は関係ないと思います。みんなで取り組むことが一番です。
- 地域防災活動に地域住民として、今後は参加をしていきたい。
- 防災フェスタで活躍される女性の方々の姿は頼もしく見えました。女性の主体的な参画が自助の源になれるのではないかと感じます。
- 男女関係なく参画が必要と思う。
- 男性も女性も同じ土俵でかかわることは当然だと思う。意思決定に女子が加わることは当たり前。そのような時代に向けて、皆で行動を起こしていきましょう。
- 女性が参画することによって、男性ばかりだと偏りがちな意識を均衡の取れた意識に戻すことができる。女性だけでもダメだけれど、男性だけではもっとダメ。そもそもが社会の作り方が、男性主導型になっているから。発災などの有事の時に、家族を守る、地域の細かいところに目を向けることができるのは、女性の生物学上の特性。大いに特性を発揮してもらうために、今からの参画が必要だと考えています。

- 性別に関係なく、できる人ができることをするのが大事だと思います。その中に、女性ならではの配慮や気配り、心配りができるのではないのでしょうか。地域住民、みんなが参画することが大切だと思います。
- 女性には地域の実情を把握していたり、生活者として高い能力や経験を持つ人が多いと考えます。事前防災の取り組みや、被災後の生活再建などにはその能力が必要です。
- 性別に関係なく必要だと思います。
- 居住地での日々の付き合いの中で、地域の人を知り…災害が起きた時には助け合って乗り越えなければならぬ事が多くあると思います。男・女に関わらず、色々な人が参画する事が必要だと思います。
- 賛成、日常生活のことが具体的にわかっていることが多い。男性で地域外に仕事している場合気づかないことが多い。いかに、安全安心な避難所の設置や利用について日頃から意見を言う意識を女性も持つようにすべき。
- 大切なことだと思います。多様な視点で問題を考えることが必要なので。
- 私の地域で広く防災活動が行われているのかいないのか、一般の住民には知らされていないことが多いと思っています。自身は折に触れ、講演や研修には出席するように心がけてはいますが、もう少し小さなグループでの活動が必須だと思います。活動を円滑に進めていける術も学べたらいいなと思います。
- 女性にしかわからない事でも、一人二人など、少人数の場合は、いい出しにくい事が多いと思うので、忌憚ない意見を吸い上げるためにも、一定数、半数は必要だと思う。ただ女性もいます。くらいでは、実質が変わらない。

(70 歳代)

- 男女問わず地域全体が高齢化で若い方は仕事や子育てで役員以外の参加が少ない。会や避難場所整備など今日は何をするかの積極的呼びかけ（ムチ）と、参加メリット（アメ）があれば、男女・高齢者も参画しやすいと思う。
- 意見を言う場に多様な人々の参画が必要だと考えています。
- 災害が起きる時間帯、場所が何処かわからないがそれらに関係なく、おそらくその場にいる人は女性のほうが多い可能性がある。

《男性》

(19 歳以下)

- 女性や男性という性別にこだわらず、地域の防災により多くの人が参画することは大切なことだと思う。その中で男性、女性どちらの視点からも考えることができるような組織の運営体制づくりは目指していかないといけないと思う。

(20 歳代)

- とても重要なこと、防災・減災分野への女性の参画を促進する取組が必要。
- どんどん参加すべきだと思います。また自治体の危機管理部局もどんどん女性を増やしてほしいです。
- 女性が参画することで、地域の防災力が向上することが、他の地域でも見られる。
- どんどん参加していくことはとてもいいことだと思います。ただ、男性も女性も家の家事などで参加する時間がないことがあると思いますので、参加方法等検討して柔軟にできたらいいと思います。運営の人が大変になるので、なかなか難しいとは思いますが、。。。。。
- どうしても力仕事、とかになれば男手が必要。しかし、女性の柔軟な考え方も重要。適材適所で話し合えばGood。
- 良いことだと思う。

(30 歳代)

- 子育て世帯（できれば共働き）の女性目線が、高知県だけに限ったことではなく、多くの自治体の防災計画で弱いと思う。日常のタイムマネジメントや物品管理（食材や日用品の在庫管理）で、共働きで子育てしている女性ほど、スキルを活かせるアクターはいないと思う。
- 性別関係なく様々な人が自分の事として参画する事が重要。
- 防災に関係のない人などいないため、女性を含めなるべく多様な属性が参画すべきだと思う。

(40 歳代)

- 大切だと思う。
- 男性女性に関係ないが、多視点からの考えが必要だと思う。
- 多様性に応じ計画が必要となることから男性主導ではなく地域全体で取り組む必要がある。
- 女性の意見を抽出して対応を進めるため、様々な年代の女性が参画した方がよい。
- 積極的な参加を期待しております。
- 一定数の女性の参加は必要と考えますが、最近の防災の傾向は女性の参画をうたってるばかりで逆差別にすら感じるときもあります。
- いざ災害が発生した際に稼働できるメンバーの選択肢を増やすことが重要と考えるため、参画していただくべき。
- 男女関係なしに参画が必要。

- 女性特有の問題などへの対応の質が改善されると思われます。
- できるだけ多くの女性が参画することが望ましい。
- 多角的に物事を見るには、女性目線は不可欠。
- 「女性が参画する」という発想自体が違うのでは？そもそも入っていないのであればその方が極めて問題かと。
- 女性のことは女性にしかわからない事があるから。
- 女性ならではの、視点があるので、参画は必要だと思う。
- 女性も積極的に参加してほしい。
- わからない、どちらでもない。
- 特にマイナスの面はないので、できるだけ多く参画すべきだと思います。
- 能力的に向いている女性が参画するなら良いと思う。論点は「男・女」ではなく、参画する人の能力がマッチするかどうかだと思う。
- 年代に偏りのない方々の参画が必要であると思います。
- 女性目線は必要なので、意見をだしていただきたい。
- 女性に関わらず多様性が必要（男女、LGBT、年齢、障がいの状況など）。
- 女性視点からも避難所の運営を考慮しておかないと、実際に発生した際に対応できない。
- 必須。

(50 歳代)

- 性別や立場にこだわらず多様な視点で考えることが必要だから。女性、子ども、外国人、高齢者、学生、ハンディキャップを持つ人、多様な性自認を持つ人の視点が必要です。
- 日頃の地域防災活動に女性の参加が難しいと感じられ、参加しやすい環境整備が必要と考えます。例えば、地域の防災課題の実情を知っていただけるようにSNS発信するなどです。
- 男性も女性も関係ないから。
- 防災に男女は関係ない。
- 高齢者・女性・子供等弱者の視点が必要。
- 自主防災組織の役員の過半数を女性が担う事を目標に活動しています。避難所では女性が判断や指示、管理を担い、男性が現場で対応するのが合理的だと考えます。
- 是非とも参画していただきたい。視点が広がることは、良いことと考えます。
- 防災対策には多種多様な考えが必要。
- 女性の参画は必須だと思います。
- 多様な視点が必要。
- 男性と同じくらい女性が関わることによってお互いの気付きがより良い対応策を見出すことができると思います。
- 身体的な配慮が必要な場合もありますので女性の会員の協力が欠かせません。今はいませんが出来れば役員もやって欲しいです。

- 男性では分からない女性の視点、関わりにくい分野、気づきなど女性の参画は必ず必要だと思います。
- トイレの区分けや、授乳スペースなど、避難所運営に女性の意見は重要だと思います。
- 男性しか分からない事や女性しか分からない事があるので、男女の区別は不必要だと考えます。
- 女性が参画することにより多様な視点で物事を考えることができるから。
- 男女平等・多様性が声高に叫ばれるご時世になっておりますが、女性には女性ならではの視点や細やかな感性が間違いなく男性よりも備わっていると考えます。災害時に特段の配慮が必要なのは特に弱い立場（高齢者や子供）だと感じますので、そこには女性の感性が必要不可欠だと考えます。
- 性別にかかわらず、多くの地域住民が主体的に参加することが必要。
- 実際に被災に遭われた地域での避難所運営での課題（物資供給、トイレ、入浴、睡眠、洗濯、ゴミ排出など）や取り組みの好事例などを SNS などで発信を行い、男女や年齢に関わらず多くの人が防災について関心や興味を持ってくれるような機会を増やすことが、重要と考えます。
- 上記で選択したように、緊急時の限られた時間や場所では、多様な視点が必要不可欠である。もっと言えば、高齢者や生徒さんの意見も重要である。
- 私もそうですが、多くの方は上記の理由で回答された通りのお考えかと思われます。にも関わらず、重ねて記述が必要な項目の回答を必須にすると、全体の回答率が下がるのではないのでしょうか。
- 男性・女性の両方が必要だと思います。
- 地域防災活動への女性の参画は当然であり、その是非は論を待たない。
- 男女分け隔てなく幅広い年齢層の方の参加が望ましい。
- 男女それぞれの視点から、きめ細かな防災対策を実施していくべき。
- 女性からの視点での意見は重要である。
- 推進すべきだと思います。
- 被災後の生活支援において、女性ならではの細かな気配りが必要。身体と心のケアは、年齢や性別に応じた対応が必要。
- とても重要な事だと思う。
- 色々な方の目線で見ないと、どうしても見逃しが発生します。女性に限らず、多様な目線が必要と考えます。
- 性別を問わず、参画することが重要と考えます。
- 災害が起こると弱い立場の女性、子供、お年寄りに苦勞がかかるから普段から地域防災に女性が関わりその視点が活かされることはよりよい災害対策に有効。
- 避難所で過ごさなければならない状況では、女性にしかわからない、あるいは女性にしか対応できないことが多くあると考えるから。
- 少子化や、日中の就業などで人手が不足している。日頃から活動できる人が必要であり、非常時には牽引していかななくてはならない。そのためには多くの人の参加が必要であり、男性だけでなく

く女性の力も必須だと考える。

- 女性ならではの準備や対応が役に立つと思います。

(60 歳代)

- 多様な視点、考え方が必要になると思うので、老若男女かわらず、みんなで考え話し合う事が必要なと思います。
- 女性参画は、防災減災に限らず、地域づくりにおいて、とても大事ですが、当方の住む地域の自主防災連合会では、会長、副会長、事務局長とも全て女性ですが、多様性に配慮した活動をしているとは、思いません。女性が多く入れれば多様性に配慮しうまう行くとは限らない事例。結局、人材によります。地域づくり、まちづくりに女性の参画を促す事を地域の中で常に考慮して活動する必要があると思います。
- 過去の災害で避難所の女性への性暴力など重大事件が起きているため、プライバシーを守るためにも女性の意見は重要。
- 参加を希望する方がいれば積極的に参加すべき。
- 男女問わず、多くの人々が防災意識を持つことが必要。
- 積極的に参画していただくことに期待します。間仕切り種類（着替え場所、授乳場所等）、トイレの設置位置（男性用トイレと離れた場所とか）等女性ならではの意見を出してもらいたいと思います。
- いないと困る。
- 女性の問題(生理等)に男性がなかなかタッチしづらい。
- 必要だと思います
- 女性ならではの気付きもあると思うので、参画は必要だと思います。
- 性別にこだわらず、自主的な活動が必要。
- 年齢、性別など関係なく人として地域のことを考える方が中心になってほしいと思います。
- 男性にはない決め細やかな心配りが出来る。
- 地域防災を考える上で「女性の視点」はとても重要。育児や家事などの負担を減らし、参加しやすい環境づくりのため、女性参画への家族の理解を深める啓発支援も必要。
- 心配りや女性ならではのこまめさが大切であると思うが、初期避難状態では、大雑把にすすめていって、落ち着き始めた頃に、ケアなどしてもらった方が良いのではと思う。
- 地域は、少子高齢化、過疎化していて、昔のような一体感がないので、女性が参画することにより、地域全体で地域を支えているとの一体感が生まれること、及び女性ならではの視点で意見を貰うことにより組織のレベルアップに繋がると思う。
- 女性が比較的に避難弱者に対する配慮が長けていると考える。
- 男女に関わらず可能な活動に自主的に参画する地域社会になればいいと思います。
- 防災について、女性や高齢者、子供など多様な視点から考えていく必要がある。
- 女性がもっと積極的に参加すべきだと思う。

(70 歳代)

- 女性にしかわからないことが多い。
- 女性の立場での意見が欲しいから。
- 協力し合うことは大切なこと。
- 女性の参画は必須と考えます。当防災会の炊き出し班長及び班員は女性で構成しており、上手く機能しています。高齢者(特に女性)が多いため、男性のみで構成している救援救護班には、今年の総会で女性の参画を提案します。
- 男性中心の役員体制では、女性ならではの感性や特性（妊婦、生理など）を十分理解できず、環境整備に偏りが出来ると考える。
- 女性の参画は、いろんな意味で大変有益だと思います。
- 地域活動に参画することで女性の対応が必要な事案の発生が予想されるから。

(80 歳代)

- 自主防災会活動や避難所運営訓練等に女性視点が必要である。
- 1923 年（関東大震災）～2024 年の間に、国内で M7.0 以上の地震は 26 回起きている。その内、8 時～18 時の間には 12 回起きている。働き手（恐らく男性）が居ない時間帯に地震が起きる可能性は約 50%ある。発災直後は公助は無理なので、恐らく女性達による共助で救命・救助を行うことになるだろう。したがって、女性をリーダーとする自主防災組織が望まれることは言うまでもない。

《その他》

(50 歳代)

- 年代によって育児や介護等で忙しいとおもいますが、人手不足と聞いていますので女性が参加すると良いと思います。

(60 歳代)

- 女性の身体的な事や出産前後の方への対応など女性が声をかけたほうが良い場合もあると思います。

《回答しない》

(19 歳以下)

- 被災者それぞれに合った対応をするのは難しいことだけど、防災組織側の人や考えが多様化することが、災害時のトラブル等を減らし、より早い復旧に繋がると思うから。

(20 歳代)

- 防災・避難生活を考慮した際、女性や子育て世代へのサポートがより充実すると考えられる。

(30 歳代)

- 男性には男性にしか、女性には女性にしかわかり得ないことがあり、話しやすい場を設けて、男女平等に参画できることが望ましいと思います。

(60 歳代)

- 当たり前ことが当たり前になるようにしたい。